

ベンチを設置して人にやさしいまちへ！ 西東京市独自のPFAS対策を進めよ！

生活者ネットワーク 後藤 ゆう子(ごとう ゆうこ)



ベンチの設置

問 健康増進や住民のコミュニケーション促進のため、様々な都市が*ウォーカブルシティの取組を進めている。そのためにベンチの設置の要望が多い。市内の主要道路沿いのベンチ設置数は何基か。

答 本市は人にやさしいまちづくり推進計画を策定し、その中で未利用地や残地を活用したベンチ等の設置を検討することとしている。設置数は現在調査を進めている。

問 三鷹市は「ほっとベンチ」事業として設置費用の一部を寄附金で募ったり、用地協力者には固定資産税の非課税や減免措置を行い、積極的にベンチを設置している。参考にしてはどうか。

答 町なかにベンチ等の休憩施設があることは外出機会の創出やコミュ

ニティ形成の場としても重要であると考えている。他自治体の取組を調査研究する。

PFAS対策

問 浄水場から高い濃度のPFASが検出された岡山県吉備中央町では、住民の血液検査を公費で行った。本市も市民の不安軽減に独自で何か行わないのか。

答 国や都の情報を正確に伝える。



田無駅南口ベンチ

学校給食への異物混入は安全安心を揺るがす 重大な事態と厳しく指摘する

無所属 田村 ひろゆき(たむら ひろゆき)



問 新聞報道された翌日に市はホームページに報告を掲載した。結果的に報道が先行し、市が事案を隠していたような印象になったのは大変残念だ。

答 まずは事故のあった学校とその保護者に報告すること、保護者説明会を開催し、混入の原因と再発防止に向けた取組を説明することを第一に取り組んできた。段階を踏んでの公表となったが、当該異物混入のあった両校の保護者に対して再発防止に向けた取組内容をお知らせするとともに、市教育委員会のホームページに掲載した。

問 現場で働く調理員の環境改善の必要性についての認識は。

答 学校栄養士から給食室の作業環境等について報告を受け、給食室の環境改善に必要な情報の収集をしている。

田無駅南口交通広場について

問 進捗状況、事業完了の見通しは。

答 事業用地の取得率は約87%。今後、用地取得契約の締結を予定している件数は3件。残りの事業用地の取得に取り組むとともに、整備工事に向けた設計業務等の準備を行うなど、令和10年3月末の事業期間内の完了に向けて事業を進める。



田無駅南口交通広場イメージ

厳しい雇用情勢の中、労働環境整備を求む！ 超高齢社会に向けて、介護人材確保は必須！

立憲民主党 森 しんいち(もり しんいち)



問 完全失業者数の増加や、非正規雇用の増加等、労働環境の整備が求められているが、市長の考えを問う。

答 本市にはハローワーク三鷹が田無庁舎に設置されており、東京しごとセンター多摩など、関係機関と連携しながら、就労・雇用、労働環境の相談対応や支援に取り組んでいる。

問 超高齢社会に向けた本市独自の施策はできているか、市内の介護人材は足りているのか。

答 フレイル予防やeスポーツ講座の開催、健康デジタル指導士の育成・活用のほか、家族介護者の精神的な負担の軽減を図るとともに、西東京市くらしヘルパー養成研修を実施し、介護人材の確保にも取り組んでいる。

問 公契約条例について、多摩地域でも複数の団体で条例化の動きが出ている。本市でも学識経験者等による

検討委員会を設置しないか。

答 多摩地域の複数市で具体的な動きがあり、公契約を取り巻く環境が急速に変化していると感じている。他団体の動向や国の動向なども見極めながら、検討委員会の設置を含め、調査研究を進めていきたいと考えている。



西東京就職情報コーナー

超高齢社会「2025年問題」にいよいよ突入 国、都任せではなく市としてしっかり対策を

無所属 佐藤 大介(さとう だいすけ)



市長の政治姿勢について

問 市長はこの1期4年間「子ども・環境・平和・若者」の4つを柱とし取り組んできた。今後、超高齢社会に突入し、高齢者施策は今まで以上に重要と考えるが市長の見解は。

答 今後、高齢者施策について時代に即した取組に力を入れていく。

意見 医療・介護サービスの充実、交通の利便性、コミュニティの形成、住環境の整備、分かりやすい情報提供など、多様なニーズに応えられる取組を進めていただきたい。

*デジタル遺品について

問 スマホやパソコンなどのデジタル機器を通さなければ確認できないデジタル遺品が社会問題になっている。市として、指導、周知が必要と考えるが見解は。

答 高齢者生きがい推進事業による

講座の内容に加えることを検討していく。

障がい者スポーツについて

問 スポーツ相談窓口運営における障がいがある方への対応、支援についての市の考え方は。

答 人とのつながりや共生社会の実現に向け、年齢や障がいの有無にかかわらず、どなたでも利用できる相談環境の充実を図っていく。



マニュアルありきのいじめ対応？ 教育委員会は抜本的な見直しを！

生活者ネットワーク かとう 涼子(かとう りょうこ)



旧市民会館の跡地活用

問 市内初の公民連携施設ONE FOR ALL西東京がオープンしたが、1階の地域交流スペースは土日はほぼ閉まったままだ。基本理念に掲げたにぎわいの創出をどう実現するのか。テナントは竣工までに埋まるのか。

答 基本理念の実現は、事業者が中心となり取り組む。テナント部分の提案は、現時点では整っていない。

意見 市のイベントで活用するなど、公民連携で施設の魅力を高めよ。

ごみ屋敷への対応

問 近隣からの相談窓口と庁内連携支援体制の現状は。

答 ごみ屋敷に至る背景を踏まえた対応が必要であり、環境部門と福祉部門が連携して解決に取り組む。

「いじめ対応 西東京の約束」

問 いじめを受けた子が長期欠席に

至るケースがあるのは看過できない。いじめ把握後の対応の流れは。

答 「西東京の約束」では「15日以内の解決」「いじめている子どもに謝罪をさせる」などを定めている。

問 いじめは多様化しており、一律のルールをしくべきではない。抜本的な見直しを求める。

答 子どもに寄り添う対応が大切であり、見直しを図る。



ONE FOR ALL 西東京

レプリコンワクチンの安全性について

無所属 長井 秀和(ながい ひでかず)



問 レプリコンワクチンは既存のコロナワクチンよりも極めて安全性が高いとのことだが、当該の審査報告書には、「本剤のRNA接種量は既承認ワクチンより少量であるが、提出された臨床試験成績は、既承認RNAワクチンに比し安全性が向上したことを示す成績ではないと考える」と下されている。安全性の根拠が脆弱なレプリコンワクチン接種を提供する市としての見解を伺う。

答 令和6年度秋冬の定期接種で使用するワクチンについては、対象とする抗原の決定を踏まえ、有効性・安全性等を確認されたワクチンが薬事承認され、国の審議会において本年度の定期接種に位置づけられている。

意見 レプリコンワクチンという、開発されて数年に満たないワクチンが、緊急承認や特例承認でなく薬事承認

されることは、人命を守るという観点から非常に危険な行為である。ワクチン接種は、原則、健康体の人を対象に極めて少ない副反応リスクの安全性が認められた薬事行為だ。いま一度立ち止まる深謀遠慮を持っていただくことを願う。

